

函館市コミュニティ・スクール講演会 開催報告

基調講演 コミュニティ・スクールの役割について

～函館市におけるコミュニティ・スクールの導入に向けて～

講師 北海道CSアドバイザー・伊達市教育委員会教育部参与

櫻井 貴志 氏

1 コミュニティ・スクール（CS）の役割

CSの役割は右のとおりだが、この中で誤解されやすいのが教員の任用に関する意見である。これは各自治体が教育委員会規則で定めている、特色ある教育をすすめるための教員の採用等に関する意見を述べるためのものであって、ある一人の教員の勤務態度等について話すためのものではないので誤解しないようにしていただきたい。

コミュニティ・スクール（CS）の役割

- ◎校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。（必須）
- 学校運営について意見を述べることができる。（任意）
- 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について意見を述べる（任意）

2 CSというツール

CSは、どのような子どもたちを育てていくのかを学校・家庭・地域社会がともに考えるためのツールであり、CSの設置自体が目的ではない。CSを導入したことで苦情の軽減、学力の向上、生徒指導上の課題の現状などの成果が出ているが、CSを導入したから解決したわけではなく、ツールの使い方によるものである。

CSとは

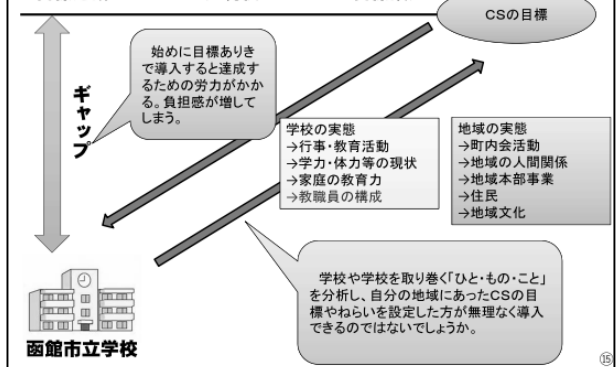
コミュニティ・スクールは、
地域住民等が学校運営に**参画し、**
学校を**応援する仕組み**

あくまでもツールであり、設置が目的ではない！

3 CSを効果的なツールにするために

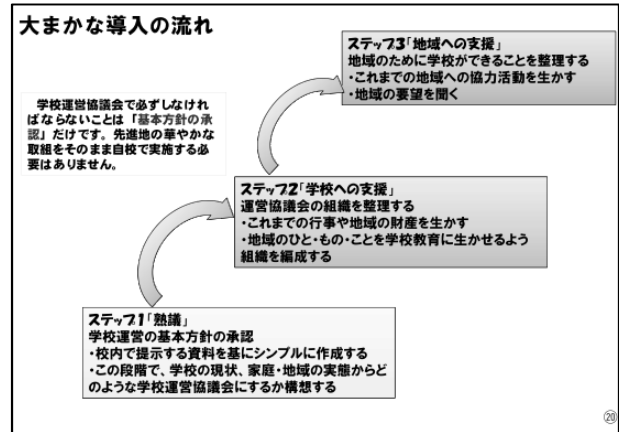
CSを導入する際は無理に新しい行事を始めたり先進地域のことを真似するのではなく、すでに地域や保護者に協力いただいている取組をCSに組み込んでいくことが大事だ。目標が高すぎると負担感が増すので、地域の実情を見定めて導入することで効果的になる。

CSを効果的なツールにするために ～目標達成型ではなく、現状を生かした目標設定



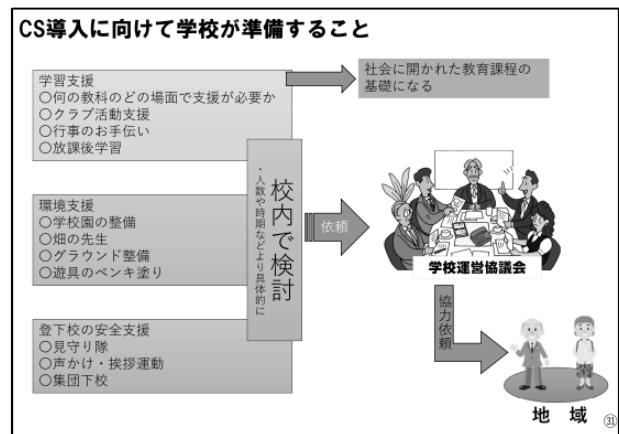
4 CSの大まかな導入の流れ

CSを導入した後は熟議をし、お互いの現状をしっかりと話し合う。ここから次のステップに進んでもいいが、学校運営協議会がやらなければならないことは、学校長が作成した基本方針の承認の1つしかないのです、無理をして色々なことをやらなければならないわけではない。



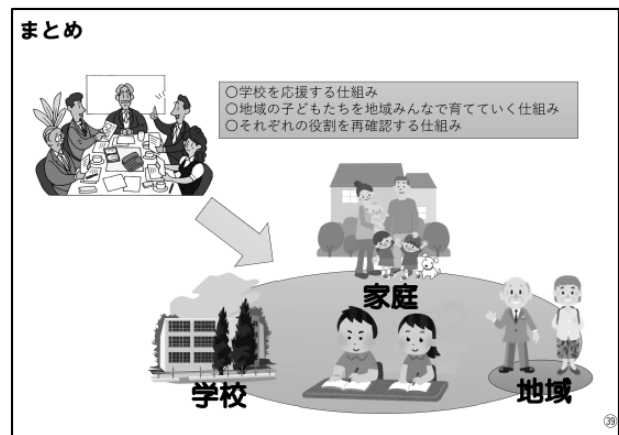
5 CSの導入に向けた準備

学校はCSを導入する前に、既存の取組の中からどのようなことを手伝っていただきたいのかを校内で検討する必要がある。自分たちでもしっかりと制度を理解し、自分たちのためにも使うようにすることが、子どもたちのより良い教育につながっていく。



6 まとめ

CSとは学校を応援する仕組み、地域の子どもを地域みんなで育てていこうという仕組み、学校・家庭・地域社会それぞれの役割を再確認する仕組みだと理解し、難しく考えず、自分たちの地域にとってどのようなやり方がふさわしいのかを十分熟議されながら導入していただきたい。



講師 櫻井 貴志 (さくらい たかし) 氏

北海道CSアドバイザー・伊達市教育委員会教育部参与

函館市生まれ。函館市立高盛小学校・函館市立光成中学校出身。弘前大学卒業後、登別市立幌別小学校教諭などを経て、2013年に登別市教育委員会教育指導室指導主幹に就任し、登別市内の全小・中学校へのコミュニティ・スクール（CS）導入の中心となって尽力。現在は伊達市教育委員会教育部参与を務められている。

2016年から北海道CSアドバイザーに就任。道内はもとより、全国各地で助言・講演を行うなど、CSの普及に向けて精力的に活動中。